

様式第5号(第10条関係)

パブリックコメント実施結果報告書
【案件名：第4次生涯学習推進基本計画(案)】

令和8年(2026年)3月
つくば市教育局 生涯学習推進課

■ 意見集計結果

令和7年(2025年)12月8日から令和8年(2026年)1月7日までの間、(第4次生涯学習推進基本計画(案))について、意見募集を行った結果、7人(団体を含む。)から19件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめましたので、公表します。

提出方法別の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人数(団体を含む。)
直接持参	人
郵便	人
電子メール	人
ファクシミリ	人
電子申請	7人
合計	7人

■ 意見の概要及び意見に対する市の考え方

○ 第1章 計画策定の趣旨 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	計画策定の目的 共生社会の実現、障害者の生涯学習機会の拡充が重要な論点となっていたことも記載すべき (p2)	1件	共生社会の実現、障害者の生涯学習機会の拡充については、生涯学習事業の実施において重要な論点と認識しています。 「計画策定の目的」では、他の項目との調整を取るべく生涯学習の目指すべき姿の総括として「第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」の中の「生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿」の文章の抜粋に留めるとともに、「2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流」(p8)の中で「2)第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」の重点事項について掲載しています。
2	地域交流センターについての記述が不十分。地域交流セン	1件	本計画は、生涯学習に関する施策を総合的に推進するための計画となって

	ターは地域コミュニティの核となる重要な施設であるため、基本目標3～5に内容を具体的に記入すべき		いるため、地域交流センター基本計画を始め、他の計画の内容については本計画では記載していません。そのため、「1-2計画の位置づけ」(p4)の中で、文化芸術及びスポーツについては記載していますが、その他の分野においても同様とする旨を明記するため本文に追記します。
--	---	--	---

○ 第2章生涯学習をめぐる現況と課題 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流の 1) 第4期教育振興基本計画について、「目標7多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂」中の「障害者の生涯学習の推進」が抜けている (p8)	1 件	当該文章においては、第4期教育振興基本計画の中の、生涯学習関係の「政策」として掲げられている主な基本目標を整理しています。御指摘のとおり、目標7では「障害者の生涯学習の推進」について記述されておりますので、追記します。

○ 第3章計画の基本的な考え方 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	基本理念の考え方に「障害者の生涯学習」を追記して、課題を明確にすべき (p16)	1 件	本計画では、特定の属性に限定せず、あらゆる市民が分け隔てなく学習機会を享受できるよう、基本方針1に「誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進」を掲げました。この「誰もが」という表現については、障害者をはじめ、外国人など、すべての方を「市民」として記述しています。そのため、計画の表現は包括的ですが、実際の取組については、障害者の皆様が安心して参加できるよう、事業を推進していきます。

○ 基本目標1 施策の方向性1多様な学びの充実 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	基本目標1の本文に「障害者、外国人等」の例示をして課題	1 件	該当頁 (p18) は、基本方針に沿った「目標」の提示に重点を置いて記述し

	を明確化すべき (p18)		ております。「市民」という表現で障害者をはじめ、外国人などすべての方を含めて記述しています。 基本目標の詳細である「施策の方向性1～3」(p25)では、この「市民」について「障害者、外国人、学びを始めるきっかけがなかった市民など」と明確に記載しております。 なお、課題の詳細については「2-2 課題の整理」(p11-14)にて取りまとめており、障害者等の課題については(2)誰一人取り残さない生涯学習(p12)に明記しています。
2	生涯学習についての体系的なプログラムがなく、イベントや単発セミナーなどが主になってしまっている (p25)	2 件	御意見を踏まえ、皆様が継続的かつ体系的に学びを深められるよう、講座間の連携も図りながら体系的なプログラムの構築を目指して取り組んでいきます。
3	単発的なイベントだけでなく、障害者が参加しやすい定期講座の開設や、障害特性に応じた学習支援体制の構築を「主な取組」に明記してほしい (p25)	1 件	障害者を含め、誰もが学びやすい環境づくりについて、重要な取組であると認識しております。単発的なイベントだけでなく、定期的な学習機会や特性に応じた学習支援の体制の必要性については、御意見のとおりと考えます。 「主な取組」へは、現在具体的な事業の形となっていないため明記できませんが、今後の具体的な取組を検討する際に参考とさせていただきます。
4	地域活動を充実するための成人教育を得る機会が不足しているため、障害のある若者の生涯学習を充実してほしい (p25)	1 件	学校教育課程終了後における障害者の生涯学習の機会については、重要な課題であると認識しております。いただいた御意見は、参加しやすい講座の開設などの環境づくりや講座の内容を立案する際に参考とさせていただきます。

○ 基本目標2 施策の方向性2市民が集う学びの場の充実 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	営利目的で市の施設の利用ができるのか、施設の設備について WEB で分かるように公開してほしい (p27)	3 件	地域交流センターでは営利目的での御利用はできませんが、営利目的で御利用いただける施設が市内に複数（つくば市民センター、市民ホール、ふれあいプラザ、つくばカピオ等）あります。 利用ルールや設備等の詳細は市ホームページを御確認いただき、御不明な点は各施設へ直接お問い合わせください。
2	市の規模や時代に合わせて、デジタル化・国際化・メディア芸術系（漫画やアート等）の振興などに資する施設を作してほしい (p27)	1件	現在、令和5年（2023年）3月に策定の「つくば市文化芸術創造拠点基本計画」に基づき、旧田水山小学校跡地を「（仮称）つくば市芸術文化創造拠点」として整備しています。 メディア芸術を含む様々な創作・鑑賞・発表が行えるほか、市内外の利用者や地域住民の交流の場としても機能させていく予定です。 また、アートコーディネーターを中心に、芸術文化に携わる人々のネットワークの構築も行っていきます。
3	車椅子の障害者への合理的配慮の促進として、「地域交流センター等のバリアフリー化」を追記してほしい (p27)	1 件	合理的配慮の促進のためのバリアフリー化については、重要な課題と認識しています。「2-2課題の整理」(p11)においても施設の活用について、新たに学びを始めたたり学びを継続するために障害者や高齢者も利用しやすい環境づくりが必要と記述いたしました。 また、「基本目標2 施策の方向性2」(p27)の中で「図書館や市民交流施設～特別教室の適切な整備と管理に努め、利便性の向上を図る」と記載しています。バリアフリー化はこれに含まれる考えです。 なお、施設の整備については、市全体

			の公共施設における方針に基づいて実施していきますが、貴重な御意見について担当部署へ共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
--	--	--	--

○ 基本目標4 施策の方向性1学びの成果をいかした活動の支援・促進について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	「障害者」を位置づけ、主な取組みに「障害者の余暇活動団体支援事業」を例示してほしい (p31)	1 件	障害者の生涯学習については、活動を担う支援者や団体の支援が重要と認識しております。「基本目標4 施策の方向性1」(p31)の「主な取組」に記載している事業は実施している補助事業となっています。現在は障害者の余暇活動団体への補助事業がないため、「主な取組」へ記載することができませんが、いただいた御意見は参考にさせていただくとともに、関連する担当部局へ共有させていただきます。

○ 基本目標5 施策の方向性2地域で学び続ける仕組みづくりについて

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	福祉事業所も学びの拠点となりうるので、追加してほしい (p33)	1 件	御意見を踏まえ、福祉関係の企業・団体等とも連携を図っていくことを意図として、「基本目標5施策の方向性2」の本文内へ記載を追記いたします。また、「主な取組」に、障害者対象の取組を追記(基本目標1の施策の方向性1の取組の再掲)します。

○ 人生 100 年時代のライフコースの考え方について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	障害者の生涯学習において、「人生の段階を意識した取組のみならず、「今」の生活を豊かにする視点や、空間的な広がりを持つ事業を推進していく考え方の視点」から、生涯学習を構想することが	1 件	今の生活を豊かにする視点や空間的な広がりを持つ事業を推進していく必要性については、障害者の生涯学習に関して支援者育成や地域とのつながりを意識して今後の事業の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。

必要 (p35)		
-------------	--	--

○ 交通安全教育 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	国(交通安全基本計画)では、交通安全教育を生涯教育として位置づけている。自転車の活用を推進するつくば市に、自転車利用者はもちろん運転免許取得者以外の者に対する交通安全教育を行う施設がないので、「さくら交通公園」を活用して、生涯教育としての交通安全、交通ルールを指導する場に行けるのではないかと	1 件	自動車や自転車の利用だけでなく歩行者の立場でも、交通安全教育が必要であるという視点は御意見のとおりと考えます。 現在つくば市では交通安全教育に関しては、防犯交通安全課で年間を通して小中学校・幼稚園・シルバークラブに出向き交通安全教室を実施しています。また、サイクルコミュニティ推進室でも民間企業と連携して児童館で自転車安全講習を実施しています。 いただいた御意見は担当部署へ共有し、今後の交通安全教育に関する取組や施設の利用の参考にさせていただきます。

○ 事業概要・関係課 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	前計画に倣い、事業概要・関係課が分かるような書き方にした方がよい	1 件	事業の概要等につきましては、本計画を柔軟に推進していく観点から、計画全体への掲載は行わず、進行管理上で活用していく考えです。御理解をいただくと幸いです。

■ 修正の内容

第1章 計画策定の趣旨

○ その他関連計画の説明(p4) について

修正前	修正後
1-2 計画の位置づけ なお、文化芸術及びスポーツの分野については個別計画において詳細な方針	なお、文化芸術及びスポーツ、生涯学習関連施設などの個別計画において詳細な方針

針を定めていることから、本計画では整合を図りつつ、生涯学習の観点から関連する取組を推進します。	を定めていることから、本計画では整合を図りつつ、生涯学習の観点から関連する取組を推進します。
---	--

第2章 生涯学習推進をめぐる現況と課題

○ 生涯学習に関する内容(p8) について

修正前	修正後
2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流 今後5年間における 16 の教育政策の目標のうち、生涯学習関係の政策は「目標8 生涯学び、活躍できる環境整備」を中心に「目標9 学校・家庭・地域の連携～」、「目標10 地域コミュニティの基盤を支える～」等に位置付けられています。	今後5年間における 16 の教育政策の目標のうち、生涯学習関係の政策は「目標8 生涯学び、活躍できる環境整備」を中心に「 目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂* 」、「目標9 学校・家庭・地域の連携～」、「目標10 地域コミュニティの基盤を支える～」等に位置付けられています。

第4章 施策の展開

○ 多様な企業・団体との連携を意図とした表記の追加(p33) について

修正前	修正後
施策の方向性② 地域で学び続ける仕組みづくり 地域においては、市民が学びを通してつながる機会の充実を図るため、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校・大学・研究機関・企業・ボランティアなどとの連携と適切な機能分担を促進します。	地域においては、市民が学びを通してつながる機会の充実を図るため、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校・大学・研究機関・企業・ 各分野の団体 ・ボランティアなどとの連携と適切な機能分担を促進します。
施策の方向性② 地域で学び続ける仕組みづくり 主な取組 (新)コミュニティ・スクール運営の支援、(新)周辺市街地活性化協議会の運営支援、つくばちびっ子博士、(新)科学出前レクチャー、(新)科学フェスティバル	追加 障害者や支援者を対象とした講座やイベント(障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり)の開催 、(新)コミュニティ・スクール運営の支援、(新)周辺市街地活性化協議会の運営支援、つくばちびっ子博士、(新)科学出前レクチャー、(新)科学フェスティバル

※以下はパブリックコメントによるものではありませんが、記載内容に変更のない範囲で誤記や表現等を修正しました。

修正前	修正後
～のなか	～の中
位置付け	位置づけ
基に	もとに
〇〇しあう(例:学びあう)	合う
捉え	とらえ
さらなる	更なる
作り	づくり ※ただし、第3次計画における「きっかけ作り」は漢字
よい	良い
p12 (2)誰一人取り残さない生涯学習課題b 2段落目 ○興味があることを気軽に学べる機会があっても「参加したくない」児童生徒も約2割おり、その理由としては「興味がない・面倒くさい」、「学びたいことや取り組みたいことがわからない」が高く、	○学校の授業以外で学びたいことがない児童生徒は約1割みられ、理由として「興味がない・面倒」「何を学びたいかわからない」を多く挙げている。また、学びたいことがあっても、気軽に参加できる機会に「参加したくない」児童生徒が約2割いる。こうしたことから、
p25 施策の方向性2 主な取組 <u>(新)乳児学級・(新)幼児学級・家庭教育学級の開催、オンラインによる講座開催</u>	オンラインによる講座開催、 <u>家庭教育学級の運営支援、(新)乳児家庭教育学級の開催、(新)幼児家庭教育学級の開催</u>
p25、27、29、31、33 主な取組	取組名に(新)がついているものは後に配置
p27 施策の方向性2 場の充実を <u>推進します</u>	場の充実を <u>図ります</u>
p31 施策の方向性2 1段落目2文目	接続詞(あわせて)追加

p33 主な取組 コミュニティ・スクール <u>運営の支援</u>	～の <u>運営支援</u>
p29、33 主な取組 (新)科学出前レクチャー、(新)科学フェスティバル	(新)つくば科学出前レクチャー、(新)つくば科学フェスティバル
p34 施策を市民の活動につなげるには 市民は社会生活において、様々な立場や背景を持っていることから、 <u>生涯学習に求める</u> 取組も、一人ひとり違います。	市民は社会生活において、様々な立場や背景を持っていることから、 <u>求める生涯学習の</u> 取組も、一人ひとり違います。
未来像 経歴 p38 働く世代、p40 障害者 概要版p6、p7 働く世代:居住歴 <u>3</u> 年、 <u>大学院</u> 卒業後 障害者:居住歴 <u>2</u> 年	働く世代:居住歴 <u>5</u> 年、 <u>大学</u> 卒業後 障害者:居住歴 <u>5</u> 年 ※障害者の活動状況を踏まえると、居住歴2年でこの活動歴は現実的でないため、プロフィールを変更。関係する人物の経歴も修正。
p38 働く世代 吹き出し2つ目 <u>最近</u> は会社の同僚にも勧めました	「最近」を削除
p40 障害者 吹き出し1つ目 概要版p7 <u>子どもの進学</u> を機につくば市に引っ越し	<u>夫の転勤</u> を機につくば市に引っ越し ※居住歴を5年に変更すると、息子が中学2年生の時に引っ越しとなってしまうので、一般的なパターンである「転勤」に設定を変更
p45 成果指標 No.4 学びの成果を <u>どのように</u> いかしているか、 <u>いかせると</u> 思うか、 <u>の質問</u> で「地域や社会での活動にいかしている(いかせる)」を <u>選択</u> した人の割合 No.6 地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合(<u>学校の授業、課外授業での体験なども含む。塾や習い事は除く。</u>)	No.4 学びの成果を地域や社会での活動にいかしている(いかせる)人の割合 No.6 地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合 ※他の指標名に合わせて記述の簡素化を図り、表現を改めました
p57 (5)学校開放事業 【学校体育施設の開放状況】	

令和7年(2025年)3月時点で、49校の 体育施設で開放を行っており、	令和7年(2025年)3月時点で、 <u>全 52 校中 (<u>廃校2校を含む</u>)</u> 49校の体育施設で開放を 行っており、
p 67 ②児童生徒アンケート結果概要 ■授業以外の学び(取組)について 7行目 ○「参加したくない」理由は、児童 生徒共に	○ <u>これから学びたい・取り組みたい内容が ない児童生徒は約1割おり、その理由は、 児童生徒共に</u>
p73 3)第3次計画の取組状況のま とめ 全体評価でみると一定の成果が上げ られており、特に自らの学びを推進す る施策については <u>成果が図られつつあ ります</u> 。	全体評価でみると一定の成果が上げられて おり、特に自らの学びを推進する施策につい ては <u>評価が高くなっています</u> 。

※パブリックコメント後に追加した箇所

該当箇所	追加項目
目次 資料編	<u>2策定経過及び策定組織に関する資料</u> <u>資料 2-1 計画策定の経過</u> <u>資料 2-2 つくば市生涯学習審議会条例</u> <u>資料 2-3 つくば市生涯学習審議会委員名 簿</u>
p8、9 注釈	「社会的包摂」の用語説明 <u>*7 社会的包摂: 全ての人々を孤独や孤立、 排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生 活の実現につなげるよう、社会の構成員とし て包み支え合うという理念のこと</u> ※本文の初出はp8ですが、紙面の都合上 説明はp9に追記しています
p20 注釈	「コミュニティ・スクール」の用語説明 <u>*9 コミュニティ・スクール: 法に基づき学校運 営協議会(保護者や地域住民などが委員)を 設置している学校のこと。学校と保護者や地 域の方々が共に知恵を出し合い、学校運営</u>

	<p><u>に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組み</u></p> <p>※社会的包摂、コミュニティ・スクールの注釈を追加したことにより、注の番号を変更しました</p> <p>p9 <u>*7</u>アントレプレナーシップ→<u>*8</u> p25 <u>*8</u>ライフステージ→<u>*10</u></p>
p24、26、28、30、32	<p>写真の追加</p> <p>p24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ講座 (卓球バレー体験) ・乳児家庭教育学級「つくひな」 (絵本と子育て講座) <p>p26</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動支援事業 (ボランティアフェスタ・子ども向けワークショップ) ・おひさまサンサン生き生きまつり (シルバーリハビリ体操) <p>p28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会力」を持った人材の育成講座 (講座の集客アイデアとチラシ作り) ・自然環境教育事業 (ホタル観察) <p>p30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財サポーターの育成 (ボランティアによる石仏調査) ・青少年体験学習事業 (中高生が教える防災教室) <p>p32</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの運営支援 (コミュニティ・スクール委員等研修会) ・周辺市街地活性化協議会の運営支援 (大曾根・花畑・筑穂ギャラリーDAY)
p65 (1)アンケート 1)調査概要	アンケートの詳細について市ホームページに公開する。掲載ページの二次元コード追加。

